

# 今後のステージの運用について (案)

【令和2年12月10日】

	医療提供体制等の負荷			監視体制	感染状況		
	病床全体	うち重症者 用病床	療養者数	検査 陽性率	新規 感染者数	先週1週間 との比較	感染経路 不明割合
全道 12/9	996床	27床	増加 2252人	減少 6.0%	1313 人/週	減少	28.7%
うち 札幌市	403床	19床	1126人	7.5%	789 人/週	減少	34.5%
ステージ4基準	350床	35床	796人	10%	796人/週	増加	50%

**札幌市における強い措置を継続する  
旭川市に行動変容の措置を講じる**

**【判断の根拠】**

別添のとおり

**【基本的考え方】**

札幌市内における感染状況を踏まえつつ、本道の人口の3分の1を占め、都市機能が集積し、人の移動の中核となるなど、社会経済活動の中心的地域という特殊性に鑑み、札幌市内はもとより、北海道全域へのこれ以上の感染拡大を徹底して抑制するため、全道の警戒ステージは3を維持した中で、札幌市において、ステージ4相当の特措法に基づく措置を講じる。

また、道北圏域の中心都市であり3次医療圏の中核を担っている旭川市において、集団感染を中心とした厳しい感染状況が続いていることから、これ以上の医療提供体制の負荷を高めないため、特措法に基づく措置を講じる。

# 札幌市における最近の感染状況について

「すすきの地区」における営業時間短縮等の要請を行った施設での感染は11月後半から減少に転じ、急激に増加してきた市全体の新規感染者数も11月24日をピークに減少しているほか、リンクなしの感染者数の割合はピーク時(11月8日)から大きく低下している。

しかしながら、依然として1日に100名を超える感染確認が続き、人口当たりの感染者数は全国でも極めて高い状態となっているほか、年代別割合では60歳代以上が30%を超えるなど、一般に重症化リスクが高いとされる高齢者の割合が増加しており、重症患者数も増加傾向にある。

また、医療・福祉施設での集団感染は引き続き多数発生するとともに、医療・福祉施設を経路とする新規感染者数が増加しており、患者数の増加による病床のひっ迫に加えて、集団感染等の影響による医療従事者の不足等も相まって、交通事故や急病などの緊急時の医療提供ができなくなる恐れが継続している。

特に、入院患者や重症者のピークは新規感染者数のピークよりも遅れてくるものと考えられ、今後も厳しい状況が続くことが想定される。

以上のことから、改善の兆しが現れつつも、新規感染者数は引き続き高い水準にあること、入院者数や重症者数は増加傾向となっており、年末年始に向けて、医療提供体制の負荷をこれ以上高めないためには、より一層、感染者数を抑制する必要があることなどから、引き続き、札幌市を対象にステージ4相当の強い措置を講じる必要がある。

また、大人数での飲食の機会が多くなる時期を迎えることから、そうした場面でのリスク回避の徹底が必要である。

# 札幌市以外の最近の感染状況について

11月以降、急激に増加してきた新規感染者数は、12月2日をピークに減少に転じているものの、引き続き1日に50名から100名の新規感染者の確認が続いている。

全道各地で医療・福祉施設における集団感染が発生し、特に医療機関での集団感染により、患者数の増加と相まって病床のひっ迫度合いを増加させている。また、離島での集団感染の発生は一挙に負荷を高める可能性がある。

一方、リンクなしの感染者数の割合は、ピーク時(11月4日)から大きく低下し、陽性率は横ばいで推移しており、集団感染の発生と大規模化が新規感染者数を押し上げている。また、年代別割合では、直近1週間で60歳代以上が35%となっており、引き続き、高齢者が高い割合を占めている。

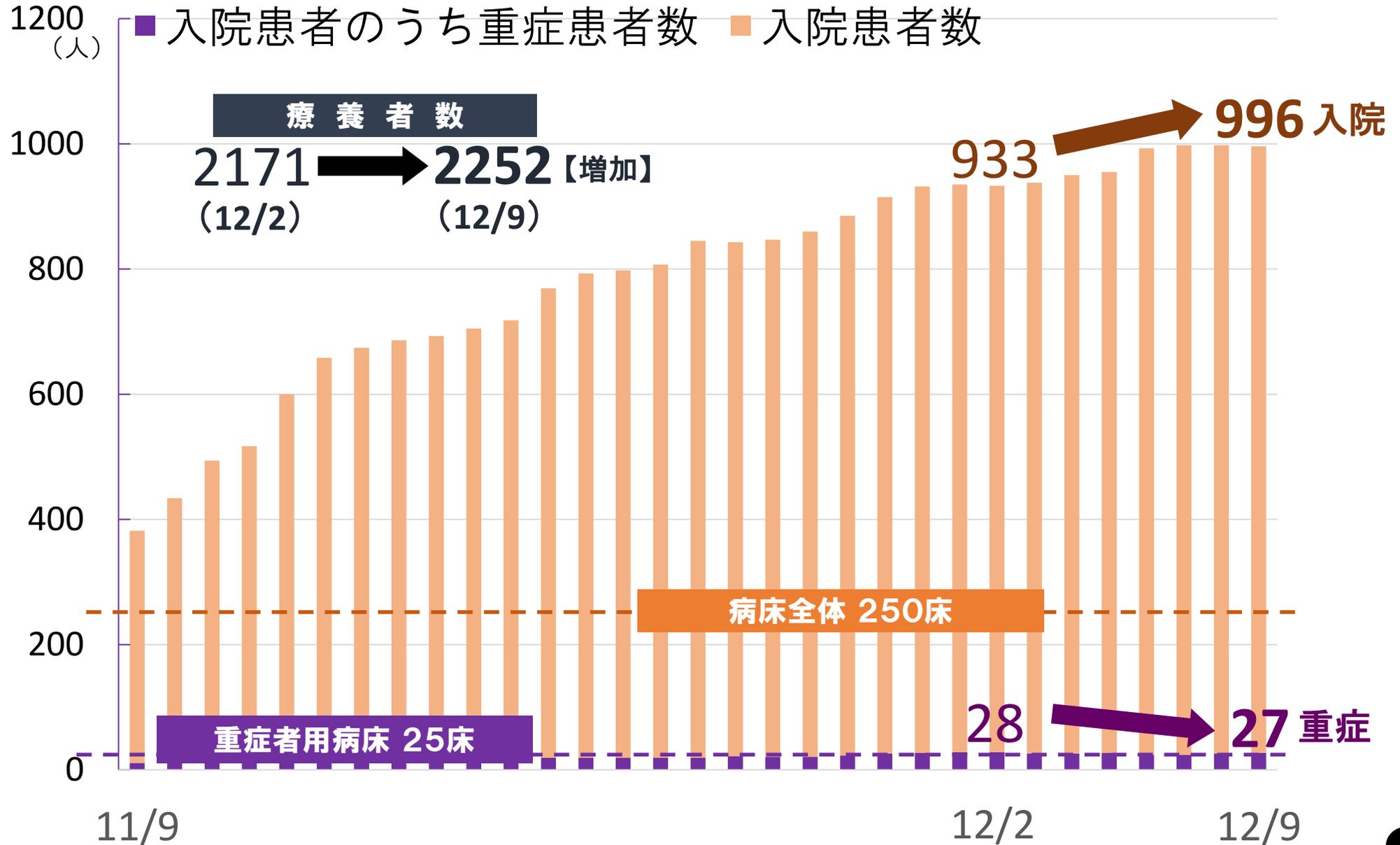
以上のことから、札幌市以外の地域では、新規感染者数、リンクなしの割合、陽性率などは札幌市と比べ低くなっているが、集団感染の発生などにより、医療提供体制のひっ迫度合いが増している地域があることなどを踏まえ、これまでの要請に加えて、大人数での飲食の機会が多くなる時期を迎えることから、そうした場面でのリスク回避の徹底が必要である。

なお、旭川市内では、医療機関等における集団感染を中心に感染拡大が続いてきたことから、リンクなしの割合は低く、現時点で市中における感染の広がりが確認されている状況にはない。

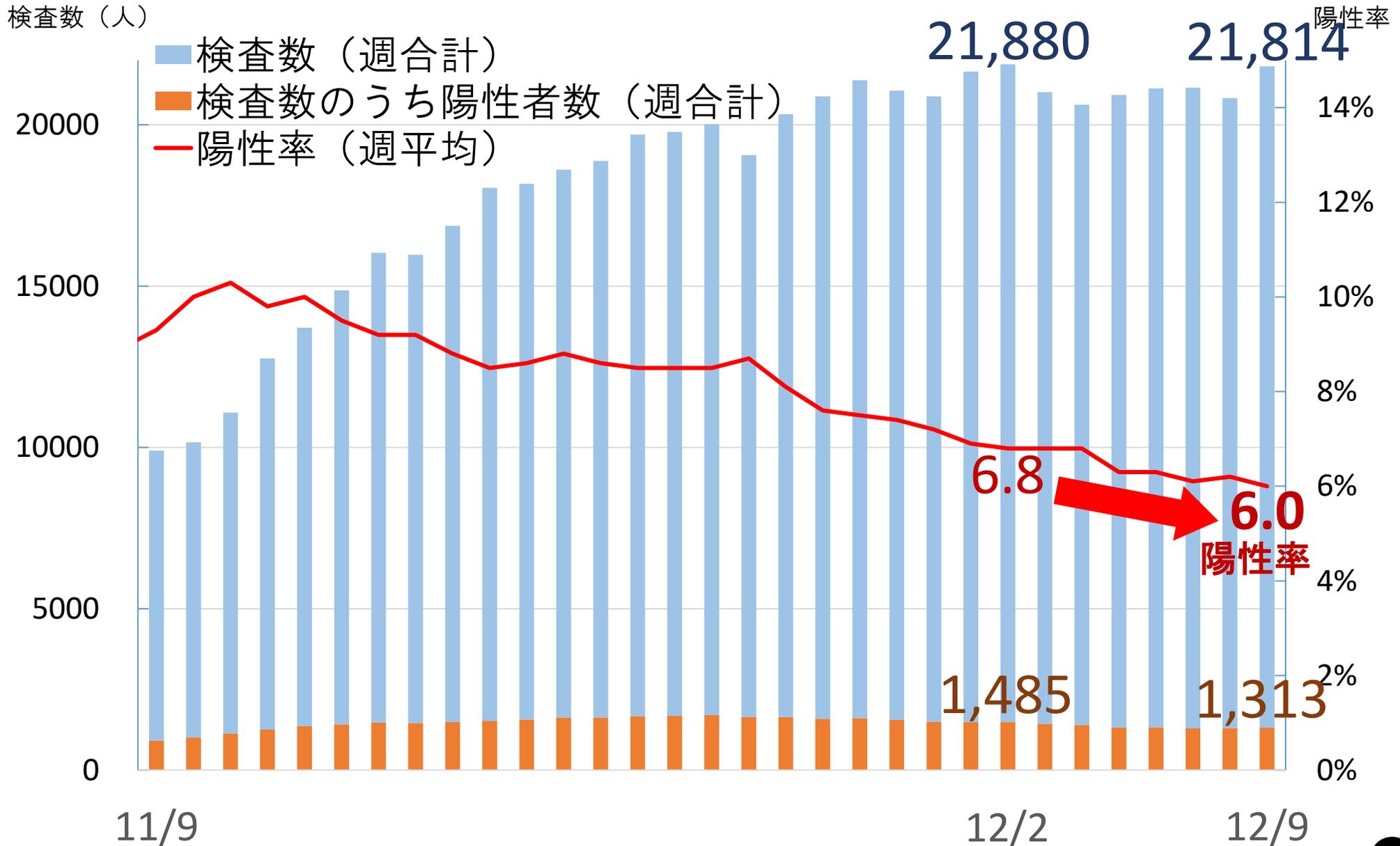
しかしながら、12月8日には、これまでの最多となる1日50人の感染が確認され、人口当たりの感染者数は、極めて高い水準を続けている。また、これまでの医療機関等での集団感染の発生により、入院患者数の増加や医療従事者の不足等が深刻化しており、感染症への対応はもとより、交通事故や急病など緊急時の医療提供ができなくなる恐れも生じている。

以上のことから、旭川市において、現時点では市中感染が広がっている状況とは言えないものの、医療提供体制の負荷の状況は、大変厳しく、今後、年末に向けて医療提供体制の負荷がさらに高まると危機的な状況になることも踏まえ、これ以上の感染拡大を防止するためにも、行動変容のさらなる徹底と、大規模な集団感染へのより迅速な対応が重要となっている。

# 医療提供体制等の負荷(指標①)



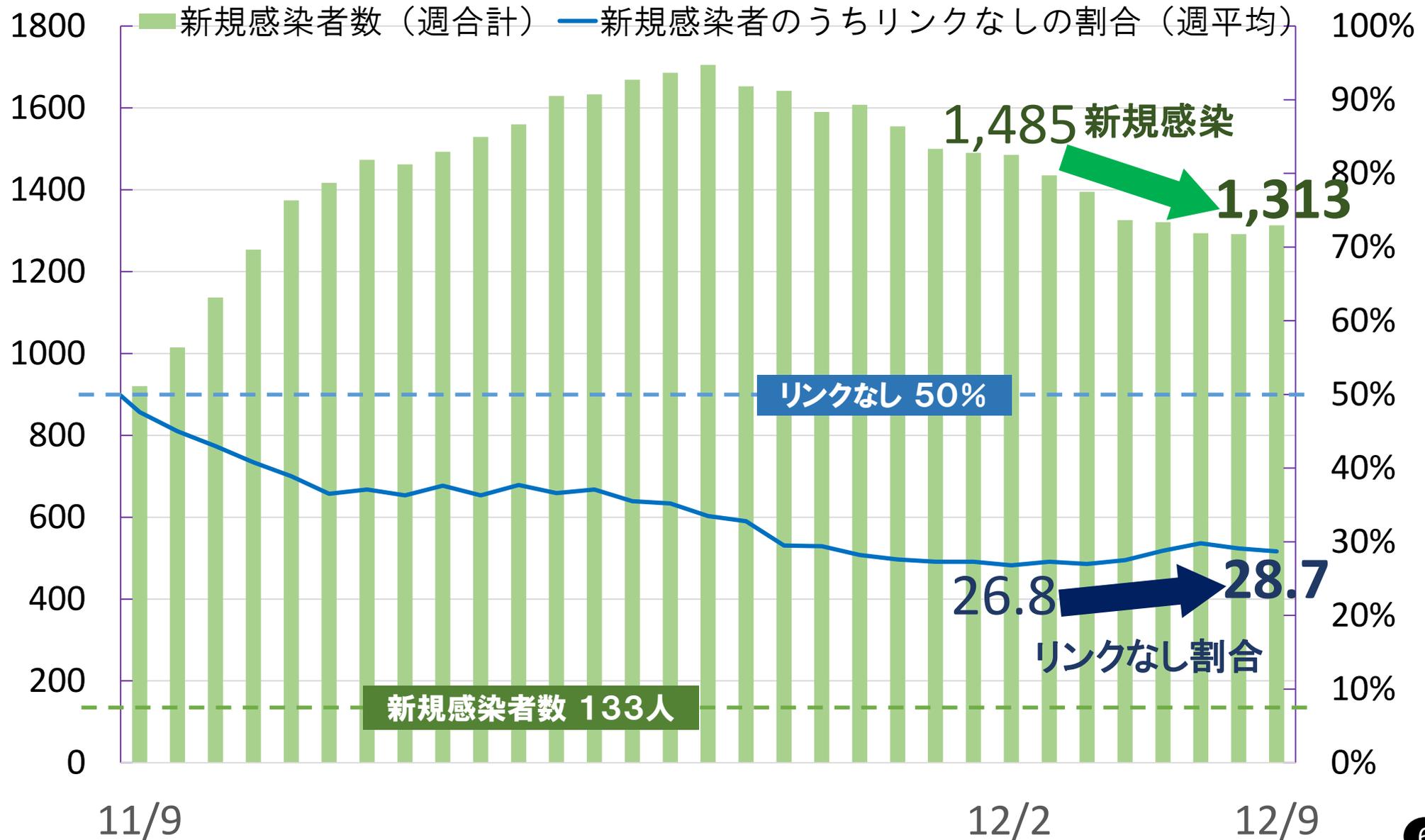
# 監視体制(指標②)



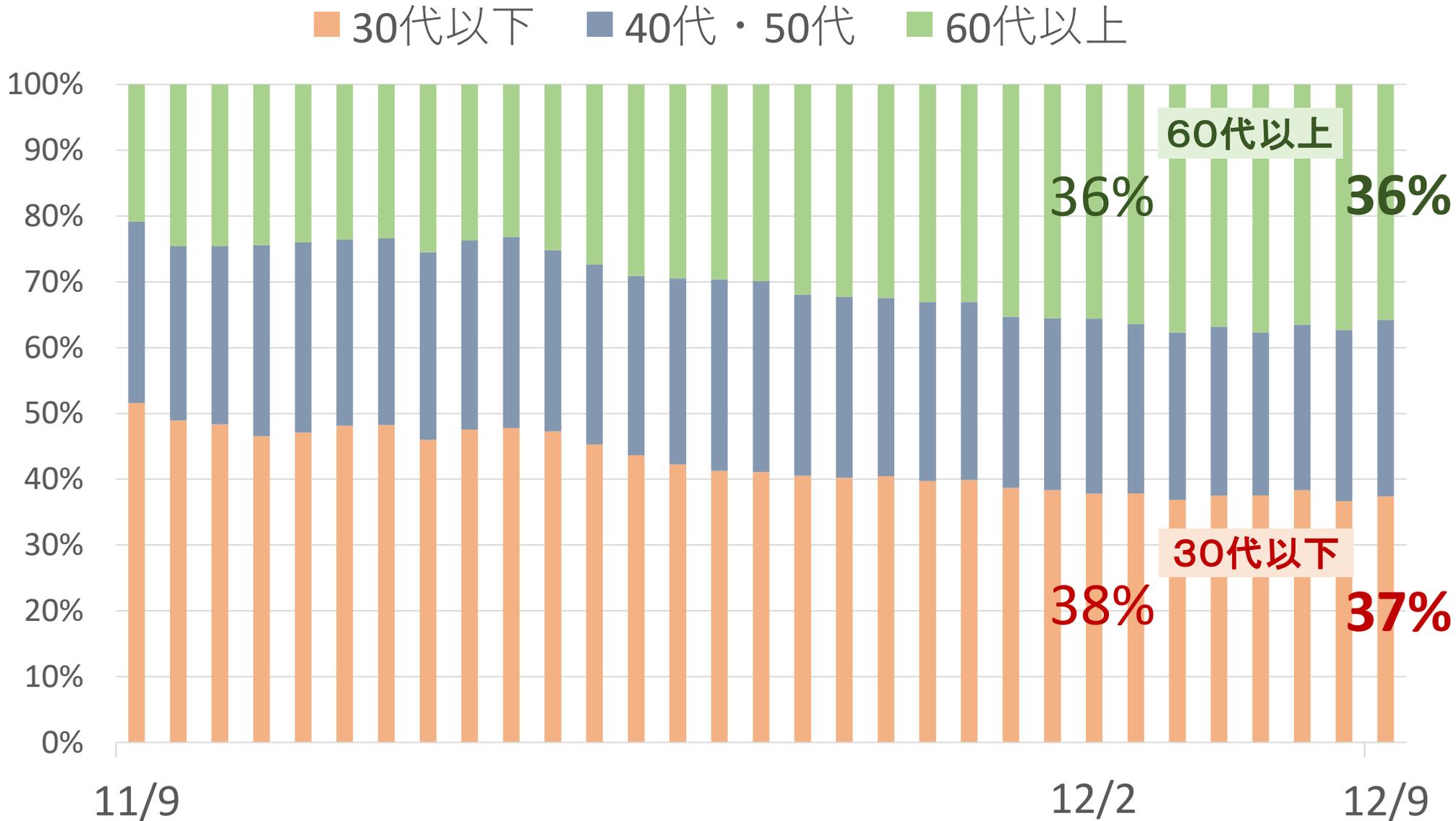
# 感染状況(指標③)

新規感染数(人)

リンクなしの割合



# 新規感染者の年代別割合(全道)



(新規感染者のうち年齢公表分を7日間平均で集計)